

Title	起業家の原動力-サービス産業における起業家の行動から抽出された自己動機づけモデル-
Sub Title	
Author	服部英夫(Hatsutori, Hideo) 古川公成
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1997
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1997年度経営学 第1370号 不可
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001997-1370

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

No. 1370

学生氏名

服部 英夫

主査 古川 公成

副査 和田 充夫

高木 晴夫

山根 節

所属

古川 公成 研究室

起業家の原動力

—サービス産業における起業家の行動から抽出された自己動機づけモデル—

本研究は筆者の退職経験から端を発しているものである。このとき初めて気がついたことは、企業が決定した組織内での個人の行動や方向性が、企業で働く多くの人間の私生活における行動や方向性の基準になっていたことであった。そのため、退職により、企業という枠から外れると、これまで個人の行動や方向性の決定に関して大きく影響を及ぼしていた基準を失うことになる。その結果、個人の行動様式は急激に変化し、何らかの形で消滅した基準を新たに形成していかななくてはならない状況となる。この過程において、その当事者は、一体何を基準にし、行動様式を決定して、進むべき方向性を決めていくのであろうか。

そこで、筆者が興味を持ったのは、起業家達である。なぜなら、起業する以上、自分の基準となる行動様式、進むべき方向性をすでに形成していると考えられるためである。彼らの行動力や発言には何か力強いものを感じることができ、それが他人に対しても何らかしらの影響を与えている。その力強い行動力や発言には、組織から外れ、行動様式の枠組みを失った者達やこれから何かを始めようとする人達の行動を支えるヒントがあるのではないかと考えている。

彼等の仕事に対する行動や方向性は、一体、何によって動機付けられているのだろうか。本研究では3つの視点、①起業動機及び起業動機の形成過程、②起業前後の行動過程より行動パターンの抽出及び行動基準、③起業家の動機づけから、仮説を作成し、サービス産業に携わる9人の起業家にインタビューから抽出された彼らの行動過程を分析し、次のような結論を導き出すことができた。

起業家の原動力とは、

「これまでとってきた行動をすべて自己のなかで自問自答した上で正当化し、関連付けることで、次の行動に対して、常にある意味を持たそうとする意志または意欲による、自己動機づけである」

また、創業歴が長くなるにつれて、①動機の対象が自己から社会に変化すること、②これまでの自己の経験を他人に継承する傾向が見られた。